

きずな



北九州市立折尾西小学校

学校だより 5月号

令和2年5月8日(金)

校長 成重純一

長期間の見守りありがとうございます

新型コロナウイルス感染防止の措置として、今後も休校が続くこととなりました。終わりが見えない状況に、保護者の皆様もお疲れになっていることと思います。

学校では、これまで20名程度のお子さんを預かりながら、感染者を出さないために、細心の注意を払ってきました。ご自宅で、あるいは、ご親戚のご家庭でお子さんを見守ってくださっている方も同じように、手洗いや換気、消毒に努めておられることでしょう。本当にありがとうございます。このような前例のない状況で、本校の子どもたちが心身ともに健康で過ごせることを願うばかりです。

学年によって内容が異なりますが、本日、ドリルや学習課題等を宅配便でそれぞれのご家庭に発送いたしました。予算が限られているため、あれもこれも送ることはできず、精選しております。数日間のうちに、お手元にお届けできると思いますので、お待ちになってください。内容は、学んだことを復習するプリントやこれから学習する内容を予習するプリントです。新出漢字についても、お子さんが自分の力で興味をもって学習に取り組めるように、手引きを作ってお送りしました。お読みになって、ご協力をよろしくお願いいたします。

休校が長引き、本校教職員も、焦りや不安を抱え、また、教職の本質的な部分を奪われている寂しさを感じているところです。登校が再開された際には、子どもたちの健康を第一に、そして、心の安定を図りながら、本来の学校生活を送ることができるよう、精一杯支援してまいります。それまでどうぞよろしくお願いいたします。

「当たり前の授業」の尊さ

保護者の皆様の不安の一つにお子さんの学力のことがあると思います。オンライン授業については、機器や環境の整備がすぐにはできないため、実施は困難な状況です。そんな中、先日、お知らせしましたように、NHKで小学生向けの番組が始まりました。テレビではありますが、形態としては、オンライン授業にほぼ近いものを感じます。



番組は、重要なポイントを押さえて、小学生が楽しんで学べるように工夫されていました。登場された先生の説明も大変分かりやすいものでした。ただ、学校の授業との大きな違いは、当たり前のことですが、「友達と学んでいない。」「目の前に教師がいない。」ということです。見過ごされがちですが、子どもたちは、教師の説明や黒板に書かれたことだけを手がかりに学んでいるわけではありません。友達の予想外の発言、つぶやき、表情に刺激を受けて、考えが変わったり、考えを深めたりしています。また、教師は、子どもに発言の機会をつくり、対話を促します。そのようなかわりを通して、オンライン授業ではできない「深い学び」ができます。

2月までは、当然のこととして毎日授業をしてきましたが、多様な考えをもった子どもが一つの教室に集まり、異なる反応を示しながら、知恵を出し合い、一つのことを獲得していく過程はとても尊いものであるとあらためて思いました。このような状況ですので、授業の進め方を少し変えていく必要があるものの、担任や専科指導者は、子どもたちと授業ができる日を楽しみに待っています。